

地域共生社会の実現に向けた福祉医療実践 ⑤

『京都済生会病院の地域共生社会の実現に向けた福祉医療実践』

社会福祉法人 恩賜財団 京都済生会病院
福祉相談室参与 南本 宜子

1. 病院の概要

所在地：京都府長岡京市下海印寺下内田101番地

設置主体：社会福祉法人恩賜財団済生会支部京都府済生会

病床数：288床（急性期一般233床、HCU12床、地域包括ケア43床）

診療科目：内科、消化器内科、循環器内科、呼吸器内科、腎臓内科、糖尿病内科、脳神経内科、血液内科、小児科、外科、消化器外科、乳腺外科、心臓血管外科、呼吸器外科、整形外科、形成外科、脳神経外科、皮膚科、泌尿器科、産婦人科、眼科、耳鼻咽喉科、精神科、放射線科、麻酔科、リハビリテーション科

関連施設：京都府済生会訪問看護ステーション
病児・病後児保育室おひさま
院内保育室なのはな



京都済生会病院 外観

2. 理念・基本方針

○当院の理念

思いやりの心 質の高い医療 明るい職場
～医療を通して地域に貢献～

○当院の基本方針

- ・患者さん本位の良質で安全・適切な医療の提供
- ・地域に応える連携・救急・災害医療・検診と地域包括ケアの推進
- ・多職種によるチーム医療と協働の推進
- ・人材育成・確保、勤務環境改善と働き方改革の推進
- ・経営改善と新築移転事業の遂行

3. 新病院でのソーシャルインクルージョンの取り組み

当院は、令和4年6月に新築移転し、名称も京都済生会病院となりました。昭和4年に京都市北区で開院、昭和58年に長岡京市に移転して以降は乙訓地域唯一の公的医療機関として、「いままでもこれからもあなたとともに」地域医療に尽くしています。

新病院開設にあたっては、嵯峨美術大学と産学連携による小児科病棟の「ホスピタルアート」、障がい者支援団体である一般社団

法人暮らしランプが出店する就労支援カフェ「NAKANOTEI COFFEE 西山」の取り組みがあります。小児科病棟の素敵な院内の風景、美味しい一杯のコーヒーからの出会いがソーシャルインクルージョンに繋がっています。



ホスピタルアート



NAKANOTEI COFFEE 西山

4. コロナ禍での福祉医療の実践

新型コロナウイルス感染症の拡大は、地域や人の生活に多大な影響を及ぼしています。

当院は地域の中核医療機関として、京都府下でも早期の令和2年2月に対応を開始し、同年4月には病棟再編し新型コロナウイルス感染症病棟を立ち上げました。地域の医師会や関係機関への研修講師も担っています。感染対策チームの医師や感染管理認定看護師は京都府新型コロナウイルス感染症施設内サポートチーム員となり、院内のみならず地域の医療機関や高齢者施設に訪問し活動を行っています。

京都福祉医療施設協議会では、京都府下の社会福祉施設等の職員を対象に研修を年2回実施しています。令和3年度は「老人福祉施設にお

ける感染対策」をテーマに当院感染管理認定看護師が講義と演習を行いました。

生活困窮者支援としては、医療ソーシャルワーカーにもさまざまな相談が持ち込まれます。コロナ禍で給与が減った観光バスの運転手の家族から、抗がん剤治療を止めたいと医師に相談がありました。医師から医療ソーシャルワーカーに依頼があり、相談の結果、診療費減免を適用し、治療中断を防ぐことができました。コロナ禍でディサービスや外出を控えていた高齢者が歩けなくなったと救急搬入されました。入院を要する状態ではなかったため、今後の生活について看護師から医療ソーシャルワーカーに相談があり、地域の関係機関と連携し介護サービスを導入したことで、生活の改善を図ることができました。末期患者が、コロナ禍で面会制限のある病院ではなく在宅看取りを希望し、在宅療養支援を調整するケースも多くあります。どのような状況にあっても、患者さん本位の良質で安全・適切な医療の提供や連携ができるよう努めています。

5. 当院の「なでしこプラン」 (生活困窮者支援事業)

当院では以下の事業を実施しています。(感染拡大の影響で実施を延期している事業あり)

- 更生保護施設入所者のインフルエンザ予防接種事業
- 桂川河川敷地区ホームレス巡回健診事業
- 向日が丘支援学校の寄宿舎入所児童への医療的支援事業
- 糖尿病教室において、健康・医療相談事業
- 市民公開講座による健康・医療相談事業

6. 地域課題を共に考える 地域での取り組み

当院では、「済生会生活困窮者支援事業連絡会」を主催しています。コロナ禍で休会となっ

ていましたが、令和4年11月に地域の生活困窮者自立相談支援員や生活福祉資金貸付窓口と医療ソーシャルワーカーで「済生会生活困窮者支援事業連絡会ケース担当者会議」を再開することができました。地域の生活困窮者相談の実情や入退院支援における生活困窮者や身寄りのない人の課題を意見交換しました。



済生会生活困窮者事業連絡会

地域ではケアマネジャー等から支援のために病気の理解を深めたいという要望があり、入退院支援看護師と医療ソーシャルワーカーが協働し、「医療介護連携推進のためのオンライン研修会」を開催しています。院内の医師や専門看護師に協力を得て、令和3年度は高齢者の糖尿病治療のポイント、令和4年度は高齢者の腎不全管理について、研修会を実施しました。地域において疾病に対する対応力が高まることは、地域貢献の一環であると考えています。

当院の職員は、地域の集まりや会議にも参画、福祉医療の立場で見える課題を発信しています。住民懇談会、地域ケア会議、包括ケア会議、高齢者虐待防止ネットワーク会議、児童虐待未然防止ネットワーク会議、障害者ネットワーク会議、DV対策ネットワーク会議、地域包括支援センター運営協議会、健康福祉推進会議等々、地域福祉活動に積極的に取り組むことが、福祉医療施設の役割であると考えています。

地域の「長岡京まるごとヘルシーフェスタ」や「ガラシャ祭り」にも参加しています。



↑ ↓ 長岡京まるごとヘルシーフェスタ



7. 今後目指す 福祉医療実践の方向性

新病院では保健・医療・介護・福祉の連携を推進し、「地域で安心して暮らす」をサポートするために地域連携や相談機能を強化した「患者総合サポートセンター」を開設しました。

個人や世帯が抱える複合的課題は、疾病や傷病を契機として顕在化します。相談・連携機能を活かして包括的支援につなげていく実践、個人の課題を地域課題として捉えて地域の解決力を強化する実践はますます重要となっていきます。包括的相談支援体制の一員として福祉医療施設も貢献していきたいと考えています。

「地域のまちづくりに貢献」は新病院のコンセプトであり、今後目指す福祉医療実践の方向性を示しています。地域の一員として、福祉医療施設の資源を地域に活かすアイデアを集積して、地域共生社会の実現を目指し、新たな具体的な事業展開を生み出そうと模索しています。